

会社の発展と挑戦

Social Development and Undertakings

技監

大川 徹

Toru OKAWA



富士通テンのホームページをチェックしている方ならご存知かと思いますが。見ていない方は是非ご覧ください。「富士通テン 4つのこだわり」というところがありますので、クリックしてみてください。本業への思いや今後の方向性について、簡潔にまとめられています。

はじめのフレームに製品の歴史があり、『カーラジオ』そして『カーオーディオ』『カーナビ』『クルマにかかわる周辺機器』と発展・拡大の変遷が記されています。ページをめくると「モノづくりを通して人とクルマを五感でつなぎクルマを使いやすく、賢く、楽しいものにします」とあり、更にページを繰ると4つのこだわりが出てきます。クルマに＜つかいやすさ＞ ＜ワクワク＞ ＜かしこく＞ ＜つなげると、もっと楽しく便利に＞と宣言しています。

これは、クルマを軸に社業を進化発展させ、世の中に貢献しますという決意を表しています。

会社が発展する要素はいくつかあるとされています。その中に果敢に挑戦していくこと、そしてこだわりをもって事業に取り組むこと、があります。

挑戦しないでいるとどうなるでしょうか。商品が陳腐化してビジネスから脱落するかもしれません。その事業分野が消えてしまう可能性さえあります。そしてオープン化の時代の今、考えもしなかった競争相手が簡単に安いものを提供してきます。工夫を加えたり、新規のビジネスを創り出したりする努力が必要だということです。

もう一方のこだわりですが、これは執着するということではありません。本業に取り組む思想・姿勢が堅固であり、お客様に価値を提供してビジネスを成功させることに意志を持って臨むことだと思

います。これはクルマに関するビジネスにはこだわりを持ち、新しいコト・モノにチャレンジしながら事業を継続し発展させていくことが大事だということです。

「道は邇（ちか）しと雖（いえど）も行かざれば至らず：荀子」

「人生は見たり、聞いたり、試したりの3つの知恵でまともっているが多くの人は見たり聞いたりばかりで一番重要な“試したり”をほとんどしない：本田宗一郎」

少し乱暴ですが、挑戦しないと始まらないということではないでしょうか。

これからのクルマは高度運転支援、そして自動走行という新時代に向かいます。

その目的達成の一環として富士通テンではVehicle-ICTでクルマを賢くし、さらに **Future Link**® でつながるを具現化していく挑戦が始まっています。

クルマの中の情報、外の情報、世の中の情報が部分的にも統合的にもICTを道具として処理されることでクルマが危険に際して止まる・回避する、さらに予測することで危険な目に遭わないようにしていくことができます。またクルマの劣化部位を事前に把握することで、トラブルを防ぐことも可能になります。そしてドライバーの状況を把握することで危険な状態にしないことも新しいクルマの時代に必要です。

<つかいやすさ> <ワクワク> <かしこく> <つなげると、もっと楽しく便利に>の実現に向けた取り組みを私たちは一丸となって進めていきます。

*富士通テン株式会社ホームページ <http://www.fujitsu-ten.co.jp/>

大川 徹